



編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuiis.ac.jp までお問い合わせください。



NUISホームページ
<https://www.nuis.ac.jp>
(スマートフォン対応)



Facebookページ
<https://www.facebook.com/nuis.face>



Instagram



Twitter
[@nuis_nabbit](https://twitter.com/nuis_nabbit)



YouTube
公式
チャンネル

4カ国へ28人参加



越智敏夫学長が留学奨学金証書を手渡しました

私が留学を決めたのは、英語力をもつと伸ばしたいと思ったからです。自分の考え方や気持ちを英語で表現し、英語で人とコミュニケーションをとれるようになります。

もう一つ、ニュージーランドの魅力を体験することも楽しみにしています。ホームステイやワイカト大学での生活を通して、新しいことを学びたいと思います。また、現地の人と積極的に交流したいと思っています。4ヶ月のニュージーランド滞在は私にとって大きな挑戦かもしれませんのが、英語力だけでなく人間的にも成長できる貴重な経験になると思うので、めげずに頑張っていきたいと思います。

最後に、このプログラムを実現させてくれた本学とワイカト大学の全ての方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

もう一つは、異文化理解です。現地習や文化授業を通じ、韓国の観光地訪問学

2年間中止されていた海外派遣留学が3年ぶりに再開されることになりました。令和4年度の派遣先はニュージーランド17人、韓国6人、中国4人、ラトビア1人の合計28人。コロナ禍や戦乱などの影響で、これまでのカナダコースが中止、アメリカはニュージーランドに、ロシアは同じロシア語圏のラトビアにそれぞれ変更され、中国へはやむなくオンライン留学となります。

6月22日に国際交流センターで開催された「壮行会」では、参加者全員の名前が読み上げられ、越智敏夫学長が代表者に留学奨学金証書を手渡しました。越智学長は「臆することなく積極的に学んできてほしい」と激励し、各コースの代表が「決意」を述べました。参加者は8月末から順次出発し、ホームステイや学生寮に滞在しながら4～5ヶ月間の留学生生活を体験する予定です。



ニュージーランド ワイカト大学



ラトビア ダウガフピルス大学



キョンヒ 韓国 慶熙大学校



中国 北京師範大学

韓国コース

国際文化学科 4年 岩野ひかる

私たち、9月末から慶熙大学校に5ヶ月間留学します。新型コロナウイルスの影響で派遣留学は2年間中止されました。が、今年度は実施するというお話を聞き、うれしかった半面、就職活動や卒業論文の執筆、サークルやゼミ活動のことを考えると不安が大きかったです。しかし、学生生活でやり残したことを考えたときに、真っ先に思い浮かんだのが留学でした。険しい道のりであるとしても、やりたいと思ったことには挑戦したい、後悔したくないという気持ちで留学を決意しました。

この機会を通して、さまざまなことに挑戦したいと考えています。第一に聞き取る力・話す力の向上です。一人ひとりのレベルに合ったクラスでの毎日4時間の授業に加え、日常的に現地のネイティブな発音に触れることができ、また、現地の人と積極的に交流したので、しっかりと吸収し、自身のスキルアップに努めたいです。また、慶熙大学の学生がサポートしてくれる「トゥミ制度」があります。授業などで分からぬことを聞いたり、現地のことを教えてもらったりして、より韓国語や韓国文化への理解を深めることができます。

木村 誠(経営学科教授)

・(2022年6月11日) 日本システム・ダイナミクス学会JSDカンファレンス2022優秀発表賞「感度分析による顧客セグメント規模の推移予測」日本システム・ダイナミクス学会カンファレンス2022(専修大学・神田キャンパス)

3)競争的資金獲得研究

木村 誠(経営学科教授)

・(2019年4月より継続～2024年3月) 令和元年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「破壊的イノベーション論とプラットフォーム論を統合したデジタル戦略論の展開」研究分担者

4)委員・社会的活動・記事・その他

今井 裕紀(経営学科講師)

・(2022年4月～2024年3月) 経営行動科学学会 理事
・(2022年4月～2024年3月) 『経営行動科学』編集委員

内田 亨(経営学科教授)

・(2021年12月10日～22日) 「コロナ下の世界におけるワーク・ファミリー・コンフリクト(仕事と家庭の葛藤)」新潟大学第13回U-goサロン「知のポットラックスペシャル2021」(オンライン)

・(2021年12月10日～22日) 「これからの水産加工企業の価値創造とは」新潟大学第13回U-goサロン「知のポットラックスペシャル2021」(オンライン)

・(2022年5月31日) 「在宅勤務によるワーク・ファミリー・コンフリクト(仕事と家庭の葛藤)と会社による従業員への関与」新潟大学第15回U-goサロン「風薫る、U-goグランツの季節到来!」(オンライン)

小山田 紀子(国際文化学科教授)

・(2022年4月15日) 書評「アルジェリアをめぐる記憶の承認－脱植民地化と『引揚者』を中心に」(大島えり子著『旧植民地を記憶する』吉田書店)『週刊読書人』

木村 誠(経営学科教授)

・(2022年4月1日より継続～2024年3月31日) 日本システム・ダイナミクス学会 理事(編集)

藤瀬 武彦(経営学科教授)

・(2022年4月24日) 第77回いちご一会とちぎ国体パワーリフティング新潟県予選大会 審判及び陪審員(五泉市栗島ふれあい館体育館)

・(2022年5月14日・15日) 第96回北信越学生陸上競技対校選手権大会 副大会長(福井県営陸上競技場)

派遣留学

コロナ禍乗り超え



国際交流センターで開かれた壮行会で
派遣留学のメンバーが集合

や普段は体験できないような文化体験をすることができる所以、とても楽しみです。また、各国の留学生と韓国語を用いて、積極的にコミュニケーションをとり、交流を深めていきたいです。新しい環境下で自身を成長させ、視野を広げるまたとない機会と感じています。

この留学制度を支えてくださっているすべての方々に感謝し、本学の代表であるという自覚をもち、何ごとも全力で乐しみ、挑戦したいと思います。

国際文化学科 2年 井上 拓海

ラトビアコース

中国コース
国際文化学科 3年 伊藤 愛里

私は今回初めて海外を訪れます。今回ラトビアに留学するのは私一人です。休憩時間でも部屋でも日本語で話ができる人はいません。言葉が通じるのか不安は大きいですが、積極的にコミュニケーションをとつて早く生活に慣れようと思います。

派遣留学で頑張りたいことは主に2つあります。1つは語学力の向上です。入学してからずっとロシア語を学んできま

は、もう一つ留学で楽しみにしているのは、ロシアの芸術に関する授業です。1年生の時にロシア語の授業でバレエを鑑賞しました。実際にバレエの映像を見てその美しさを感じ、さらに興味がわいた

私は今回初めて海外を訪れます。今回ラトビアに留学するのは私一人です。休憩時間でも部屋でも日本語で話ができる人はいません。言葉が通じるのか不安は大きいですが、積極的にコミュニケーションをとつて早く生活に慣れようと思います。

現地では、大学や日本を代表して留学しているという気持ちを忘れずに行動し、貴重な留学の経験を今後に活かせるように学んできます。帰国後は語学力を活かしてロシア語検定などに挑戦し、自分の可能性を広げていきたいです。留学は大学生の今しかできないことなので、思ひ切り楽しんで全力でチャレンジして

文化を理解する心を忘れずに生活したいです。

2つ目は異文化交流です。違う国の人と一緒に授業を受け、一緒に食事をしたりするなかで、日本とは違う新しい発見をし、国や人に関心を持つて学んでいきたいです。自分との違いを受け入れ、少しでも使えるレベルを目指してやつて

いたいです。

したが、ネイティブの発音やリスニングなどが上達の一一番の近道だと思います。交流しながら話す能力と聞く能力を高め、基礎的な文法や会話表現なども覚え、少しだけ使えるレベルを目指してやつて

いたいです。

今日はオンラインでの実施となり、現地留学することが出来ず、直接中国文化に触れる機会がありません。そのため一つひとつの授業がとても重要で、限られた時間の中で積極的に学び、多くのことを吸収したいです。

私の現段階での目標は、中国に進出している企業や中国と関わりのある企業で働き、中国とつながっていくことです。そのため、私はこの機会を活かして、

学力の向上とともに、さまざまな国の学生と交流して視野を広げ、自分の将来の目標をさらに明確にしていきたいと考えています。

北京師範大学には、世界各国から多くの学生が留学に参加します。コロナウイルスの感染が拡大している状況下で、日本にいながら海外の学生と共に学ぶことのできる貴重な機会です。このような経験ができることに感謝し、自分自身がよりいい成長できるよう、精一杯努力していきます。

私は「語学力の向上」と「視野を広げる」ために、留学を決意しました。この留学を通して、自分の語学力が現段階で

2022年度のスケジュール表(出発順)

国名／留学大学	留学期間	参加人数
ラトビア ダウガフピルス大学	2022年 8月25日～12月27日	国際文化学科 2年 1人
中国 北京師範大学	2022年9月1日～ 2023年1月31日	国際文化学科 2・3・4年 4人
ニュージーランド ワイカト大学	2022年9月17日～ 2023年1月22日	国際文化学科 2・3・4年 17人
韓国 慶熙大学校	2022年9月26日～ 2023年2月27日	国際文化学科 2・4年 6人
参加学生数合計		28人

教員の活動 (本人申告による)

1)研究論文・図書

今井 裕紀(経営学科・講師)

・(2022年3月)「職務要求がアスピレーションの下方修正を介して抑うつに与える影響—個人資源と職務資源の調整媒介効果—」慶應経営論集第38巻第1号 (43~59頁)

内田 亨(経営学科・教授)

・(2022年4月) マニエー渡邊レミー、ペントン・キャロライン、内田亨、オルシニ・フィリップ・マニエー渡邊馨子 共著「強制的テレワークにより従業員が受けた影響」秋山肇編『ボストン・コロナ学-パンデミックと社会の変化・連続性、そして未来』 (54~73頁)

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2022年5月) "A Game Theory Investigation of Contract Between IT Vendor and User in Problems of Information System",『Systems Research II』, Springer (227-240)

佐々木 宏之(経営学科・教授)

・(2022年3月) 「養育に関するメッセージ・フレーミングと制御適合」慶應経営論集第38巻第1号 (61~75頁)

アレクサンドル・プラーソル(国際文化学科・教授)

・(2022年4月) 『足利政権の衰退』 Vostochnaya kniga 出版 (ロシア) (288頁)

矢口 裕子(国際文化学科・教授)

・(2022年5月) "Anais Nin's Paris Revisited: The English-French Bilingual Edition" eBookIt.com (235頁)

2)学会・研究会・講演等

内田 亨(経営学科・教授)

・(2021年7月29日) Remy Magnier-Watanabe "Antecedents of Subjective Well-Being at Work: The Case of Japanese Regular Employees", Academy of Management Proceedings (Arisona State University: Online)

・(2021年10月2日) 「水産物の認証の可能性: フランスの水産加工企業A社の事例から」 日本情報経営学会第82回全国大会 (名古屋大学・オンライン)

梅原 英一(情報システム学科・教授)

・(2022年6月14日～17日) 細川 遼「新聞メディアと株式掲示板を用いた日経VI指数予測」2022年度 人工知能学会全国大会 (国立京都国際会館)

オーストラリアからこんにちは！

こんにちは。私は「トビタテ！留学 JAPAN」第14期生に選ばれ、今年の2月から、オーストラリアのニューカッスル大学で学んでいます。

「トビタテ！留学」は官民が協働して学生の留学を支援する給付型奨学金制度です。また、「トビタテ！」

の最大

「持続可能な観光」テーマに国費留学

国から参加する14期生、留学を果した先輩方、支援企業の皆さまと交流ができることです。地域や学問の垣根を越えてさまざまな目的を持つ方々に出会うことができました。

現地では美しい自然に囲まれながら、所属研究室での授業や交流会、また、親日の学生と交流するサーク

ルなどいろいろな活動に参加しています。私は「持続可能な観光」をテーマにこの留学に参加しているため、ニューカッスル大学周辺の観光地についてもフィールドワークをしています。留学前に、「トビタテ！」に応募して「何をしたいのか」ということをよく考えて、具現

化できたことも大切な時間でした。現地に来てからは、積極的に行動し、つかみに行く姿勢を忘れず、素直な気持ちで楽しむことを心がけています。

私自身、留学したい、でもできないう期間を受け入れることは容易ではあります。しかし、そんな

時間をお過ごしていく上で、自分自身の目標や目的を考えることができます。それらは誰と比べるものでもありません。自分自身でさまざまな人と対話しながら構築していく、そのような恵まれた環境が、本学にはあるのではないかと感じています。

(国際文化学科 3年 野澤海乃)



大学のサポートメンバーたちと
Anna Bayビーチで(右端が野澤海乃さん)

6月18日に早稲田大学で開催された第3回全日本大学生中国語スピーチコンテスト並びに第21回「漢語橋」世界大会への出場してきました。

全国4ブロックの予選を勝ち抜いてきた19人が東京の決勝大会に出場し、ハイレベルな戦いとなりました。

「天下一家」のスピーチで優秀賞

私は「漢語橋」世界大会への出場希望者のテーマである「天下一家(One World, One Family)」のスピーチをしました。前日まで大学やZoomで先生にご指導いただきながらスピーチを練習し、大会に向けて二人三脚で取り組みました。大会ではスピーチの他

て挑戦することの大切さを学びました。全国各地から集まつた同世代の参加者の発音やスピーチの表現力のレベルの高さを目撃したりにし、「もう上手に中国語を話せるようになりたい」と大きな刺激を受けました。また対面方式での開催により、他の参加者と交流をしながら留学や中国文化に関する話ができ、大学にいる



決勝戦でスピーチする
古閑里桜香さん

に中国百科知識クイズや中国文化関連の特技披露が必要だったため、鑑真が来日のきっかけとなつた詩の一説「山川異域 風月同天」を習字で披露しました。その結果、優秀賞を受賞することができました。感謝します。

今大会を通じて、日常の枠を超えてから感謝しています。感謝します。

(国際文化学科 4年 古閑里桜香)



光云大学校図書館前の佐藤陽美さん

(国際文化学科 3年 佐藤陽美)

韓国交換留学を終えて

私たち4人は2022年2月4日から6月30日まで、ソウルにある光云大学校で交換

留学として過ごしました。

コロナ禍の

ため韓国に着いてか

ら10日間の隔離を経

てから、カリキュラムへの参加となるな

ど、韓国では多くの

感染者がおり生活に

支障がある中での滞

在となりました。

そんな中で学校が

始まり、外国人向け

のカリキュラムでは

ライティングや発表

・討論を学び、韓国

人の学生と同様に受

ける授業では、4名

それぞれが受けたい

授業を選択し、受講

しました。

最初のうちは韓国

語に耳が慣れず大変でした

が、聞き覚えのある単語が出

てきたり、新しい単語を知る

違いを実際に現地で感じるこ

とができます。

私が韓国人と受け

た授業では外国人が

コミュニケーション

が必要不可欠な授業

で心が折れそうにな

りましたが、授業で

できた友達や先生に

支えてもらい、楽し

みながら学ぶことが

できました。韓国で

は学生と先生の距離

が近く、とても親し

く接してくださり心

強かったです。

異文化に触れて学ぶ楽しさ実感

光云大学校での4ヶ月

学校外でも韓国の選挙運動や文化に触

りました。留学

をした経験を糧

に、これからも

自分の韓国語力

を磨いていきた

いと思います。

新潟国際情報大学 学報 国際・情報 令和4年7月発行 2022年度 No.2